

- ◆この課の目標：
- ①挨拶ができる
 - ②自己紹介ができる
 - ③数字を覚える
 - ④自分の家族構成や趣味を話すことができる
 - ⑤人／年の数え方がわかる
 - ⑥相手に職業や趣味などを聞くことができる

- これだけは！：
- ①(私は)〇〇です。
 - ②〇〇から来ました。
 - ③よろしくお願いします。

《授業の進め方 例》

＜テキストを使って＞P.1

「はじめまして。〇〇です。」自分の名前を学習者に伝える。

初対面でない場合「はじめまして」は言わない。

自分の胸に手をあてたり、自分の名札を用意して名前を言っていることを理解してもらう。

簡単な内容なので対訳で意味を確認しても可。

① 「(私は) 〇〇です。」 導入

学習者が自分の名前を言うように誘導する。

学習者の名前をあらかじめ知っている場合は学習者のセリフを支援者が言っても構わない。

また、あらかじめ学習者の名札(学習者がわかる言語で)を作っておくのもよい。

② 「～から来ました。」 導入

学習者がどこから来たかを言うように誘導する。

「地名から来ました。」を理解してもらう。

簡単な内容なので対訳で意味を確認しても可。

学習者の出身国をあらかじめ知っている場合は、地図や国旗を用意しておくもよい。

国名が日本語の発音と同じとは限らないので、お互い確認し合うのもよい。

来日されて間もない学習者の方は出身国で導入するが、長期在住の方は居住地でも可。

③ ◆自己紹介 口頭練習

「はじめまして」「名前」「出身国／居住地」「よろしくお願いします」口頭練習する。

<参考資料を使って>P.1~7

【職業】

- ①イラストを見てそれぞれの発音と意味を確認した後、学習者にもイラストを見て発音してもらう。
- ②学習者の職業の語彙がイラストにあるか確認して「(私は) 〇〇です。」の文を言う。
自分の職業の語彙がない場合は、???の口を書く。
- ③「(私は) 〇〇です。」「(出身国／居住地) から来ました。」「(職業) です。」を口頭練習する。

【趣味】

- ①上記のことばの意味を確認する。
それぞれの発音と意味を確認した後、学習者にもイラストを見て発音してもらう。
学習者が難しそうであれば、学習者自身にあてはまる分だけを取り上げてよい。
- ②自分の趣味と学習者の趣味をお互い教え合う。
質問形式で受け答えができる場合は「趣味は何ですか。」で会話練習する。
趣味が2つ以上ある場合は「～と～です。」と口頭練習する。

【数字】

数字のカードなどを使って1～10までの数字を口頭練習する。
既にできる学習者には一回でいい。(学習者の母語の数字を教えてもらい覚える苦労を共有するのもよい)
数字のことばが初めての場合、学習者に合わせて1～3／1～5など数を絞り込んで覚えるまで口頭練習する。
*覚えようとしている間は支援者が先に答えを言わないようにする

【人の数え方】

数字がわかる学習者には「ひとり」「ふたり」のことばを口頭練習する。

【年の数え方】

数字がわかる学習者には年齢を確認する。

※言い方が変わることに注意

1才「×いちさい」「〇いっさい」 8才「×はちさい」「〇はっさい」

10才「×じゅうさい」「〇じゅっさい」

※言わない言い方に注意 4才「×しさい」「〇よんさい」 9才「×くさい」「〇きゅうさい」

※特別な言い方に注意 20才「〇にじゅっさい」「〇はたち」

【私の家族】

- ①「家族は5人です。」支援者が自分の家族の人数を言う。
- ②「父と母と妹と祖母と私です。」写真やイラストで支援者が自分の家族構成を言う。
- ③学習者の家族の人数と構成を確認(イラストを指でさしてもらおう等)して必要なことばを口頭練習する。
- ④自分の家族の人数と構成をお互い教え合う。
- ⑤学習者のレベルに合わせて家族のことばをすべて口頭練習する。

【あなたの家族】

- ①自分の家族以外の家族の呼称の言い方が違うことを理解してもらう。
- ②学習者のレベルに合わせて家族のことばをすべて口頭練習する。

<テキストを使って>P.2

◆もう少し知る

基本的な自己紹介にプラスして、職業と趣味と家族構成を口頭練習する。

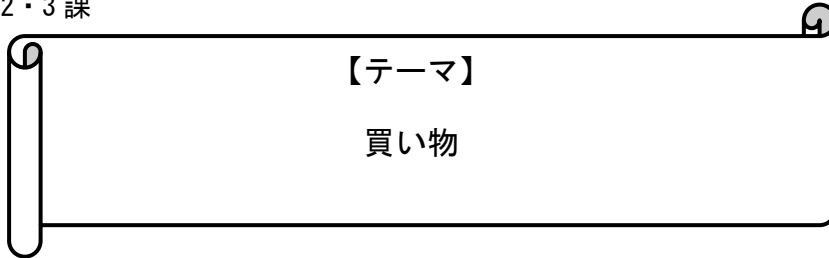
【質問する】

学習者のレベルにあわせて質問と答形式で会話練習する。

<テキストを使って>P.3

【あいさつ】

あいさつのことばを確認して口頭練習する。



- ◆この課の目標：
- ①自分の欲しい物がどこにあるか聞くことができる
 - ②自分の欲しい物を伝えることができる（例：色／サイズなど）
 - ③自分の症状を伝えてドラッグストアなどで薬を買うことができる
 - ④返品・交換ができる

- これだけは：
- ①すみません、〇〇はどこですか。
 - ②これください。

≪授業の進め方 例≫

場面設定…スーパー・ホームセンター・電器店など

（場面設定は絵カードや写真などで示す。）

＜参考資料を使って＞P.9～10

「～階」導入

数字1～10を復習した後に「～階」につなげて口頭練習する。

「～枚」導入

数字1～10を復習した後に「～枚」につなげて口頭練習する。

袋などの実物を使ってもよい。

＜テキスト・参考資料を使って＞テキストP.5 参考資料P.8

①「すみません、〇〇はどこですか」導入

たまごやパンなどのことばを文の下線部に入れて口頭練習する。

参考資料にあるイラストのことばが、ほとんどわからない場合や知らないものがある場合は、導入して口頭練習する。

学習者のレベルにあわせて参考資料にある「～売り場」を使って口頭練習してもよい。

また実際のちらしを使って、掲載されている商品を店員に聞くという設定にするのも良い。

ここで、ちらしに掲載されている情報(割引・～点限り等)を説明するのも良いが、学習者のレベルを確認する。

②「すみません、〇〇はどこですか」「こちらです」導入

支援者が店員の役になって会話練習する。

* 店員側の返答として「1階です」が含まれているので、ここで階の言い方を口頭練習してもよい。

<テキストを使って>P.5

「すみません、袋をお願いします」導入

支援者が店員の役になって会話練習する。袋などの実物を使うとわかりやすい。
学習者のレベルに合わせて「袋はいいです」を導入して会話練習する。

<テキストを使って>P.6

「すみません、ベトナム語は大丈夫ですか」導入

お店で困ったときの言葉として導入する。口頭練習をした後、会話練習する。
また、日本語表現の一つとして断るときの言葉として「ちょっと…」という断り方があることを学習者に知ってもらう。

「すみません、これと同じのをください」導入

電球や蛍光灯、電池など品番等が複雑なものを例にあげて導入して会話練習する。
(実物があるとわかりやすい)

「配達してもらえますか」導入

学習者のニーズにあわせて導入する。
大型電気製品などを例にあげて「配達してもらえますか」の導入をして会話練習する。

「〇〇で使うことができますか」導入

学習者のニーズにあわせて導入する。
シェーバー、ドライヤーなどを例にあげて導入して会話練習する。

「おすすめはどれですか」導入

学習者のニーズにあわせて導入する。
実際の日常場面では、店員側からの返答はさまざまなので学習者のレベルにあわせて会話練習する。

<色がわかるものを使って>

色のことばを導入する。

折り紙や色鉛筆などを使うのもよい。どんな色を学習するかは学習者によって決める。

<テキストを使って>P. 7

①「黒色はありますか」導入

支援者が服屋の店員になって会話練習をする。色を変えて会話練習する。

②「Mはありますか」導入

サイズなどは学習者が実際に普段購入しているもので会話練習するほうがわかりやすい。

「もう少し大きいのはありますか」「もう少し小さいのはありますか」を導入して会話練習する。

③「着てみてもいいですか」導入

学習者のレベルにあわせて「試着してもいいですか」を導入してもよい。

④「家で洗濯できますか」導入

学習者のレベルや興味にあわせて参考資料の洗濯マークの見方やクリーニングを説明する。

⑤「これください」導入

口頭練習した後は、①から⑤までを服を買う場合として会話練習する。

<テキストを使って>P. 84

⑥「また来ます」「ちょっと考えます」導入

口頭練習した後は、①～⑥まで(⑤を除く)を服を買わない場合として会話練習する。

「ちょっと考えます」は「買いません」

「また来ます」は「買いません。今、店を出ます。」という意味であることを説明する。

何も言わず店を出たり「要りません」等と店員に言うより、人間関係が壊れないことばであることを説明する。

場面設定…薬屋

(学習者のニーズに合わせて導入)

<参考資料を使って>P. 43

【体の部位】導入

ことばを確認して口頭練習する。

学習者のレベルにあわせて、参考資料に記載していない部位を導入してもよい。

<参考資料を使って>P. 14

症状のことば導入

ことばの意味を確認して口頭練習する。

「__んです」導入

「症状+(な)んです」にして文を口頭練習する。

<参考資料を使って>P. 15

【薬の種類と数え方】【いつ薬を飲むか】を確認する。

実際に市販されている薬で、用法・用量などを確認するとわかりやすい。

<テキストを使って>P. 8

◆薬屋／ドラッグストアで

テキストに沿って支援者が薬剤師になって会話練習する。

学習者のレベルにあわせて対訳で確認しながら会話練習をしてもよい。

心配なことがあるとき

学習者に練習の必要性がある場合は口頭練習する。

場面設定…ホームセンター・電器店

(学習者のニーズに合わせて導入)

<テキストを使って>P. 9

買った家電が動かないと説明をする。

学習者のレベルにあわせて「動かない場合はどうしますか」と学習者に確認してもよい。

①返品と交換の意味を確認する。

②返品・交換できる場合とできない場合を確認する。

<参考資料を使って>P. 16

「__ので 返品できますか。」「__ので 交換できますか。」を口頭練習する。

<テキストを使って>P.9~10

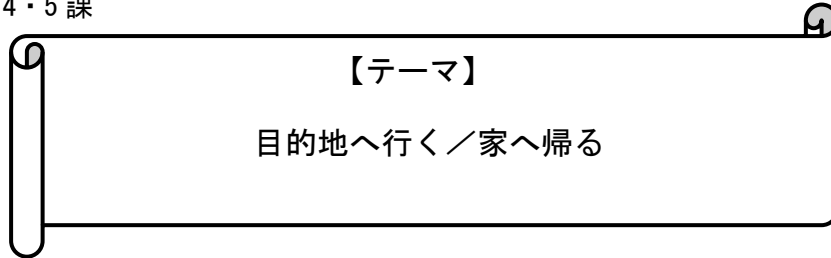
◆返品する

支援者がホームセンター／電器店の店員になって会話練習する。
学習者のレベルにあわせて対訳で確認しながら会話練習をしてもよい。

◆交換する

支援者がホームセンター／電器店の店員になって会話練習する。
学習者のレベルにあわせて対訳で確認しながら会話練習をしてもよい。
交換は在庫がある場合とない場合があるので、2パターンを会話練習する。
学習者が難しそうな場合は「交換」「お取り寄せ」ということばが聞きとれるようにする。

* 参考資料にある賞味期限・消費期限は学習者の方のレベルにあわせて導入する



- ◆この課の目標： ①人に道を聞くことができる
②公共交通機関を利用して自分の目的地へ行く・家へ帰ることができる

これだけは： ①すみません、〇〇はどこですか。
②すみません、(～まで)いくらですか。

≪授業の進め方 例≫

<参考資料を使って>P. 17

【建物】 導入

- ①イラストを見ながら確認して口頭練習する。
学習者の住んでいる地域や日本語教室の近隣にある建物であればイラスト以外のことばを導入してもよい。
(例：美容院やパン屋など)
- ②「すみません、_____はどこですか」 導入
建物のことばを下線部に入れて口頭練習する。

【道にあるもの】 導入

イラストを見ながら確認して口頭練習する。

【方向】 導入

イラストを見ながら確認して口頭練習する。

【動作】 導入

イラストを見ながら確認して口頭練習する。

方向と動作のことばが練習できたら、教室内で実際にやってみるのもよい。
支援者が学習者に指示を出す。例：「右へ曲がってください」

場面・郵便局の近く

(テキストのイラストの地図を見る)

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 11 参考資料 P. 19

①「すみません、郵便局はどこですか」「郵便局はこの道をまっすぐ行って～」会話練習

支援者が道案内する役になって「郵便局はこの道をまっすぐ行って～」とテキストの地図を見ながら説明する。

その後で「わかりましたか、わかりませんか」と学習者に質問する。

②「あ、そうですか。わかりました。ありがとうございます」導入

⇒道案内が聞きとれた学習者には、このフレーズを口頭練習する。

(道案内が聞きとれた学習者には参考資料の道にあるもの・方向・動作は最後に確認・練習してもよい)

⇒道案内が聞きとれない学習者には参考資料を使って、道にあるもの・方向・動作を導入し練習する。

そのあと、教室で実際に動いて方向動作のことばが理解できたか確認する。

③再度テキストのモデル文に戻って、支援者が「郵便局はこの道をまっすぐ行って～」を発話する。

その後で「わかりますか、わかりませんか」と学習者に質問する。

⇒道案内が聞きとれた学習者には②を練習する。

④「すみません。地図を書いてください」導入

⇒道案内が聞きとれない学習者には、このフレーズを口頭練習する。

場面・電車に乗る

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 12 参考資料 P. 22～

①参考資料の写真をテキストの横において時系列に沿って確認していく。

《進め方》

- ・路線図を見る-Aの写真 新長田という漢字がわかるか確認する。
- ・切符を買う-Bの写真 学習者に新長田までいくらか質問する。
わからない場合として「新長田までいくらですか」導入・口頭練習
- ・ホームを探す-Cの写真 案内板の写真を見て、どちらの方面に乗るか確認する。
わからない場合として「あの、すみません。新長田は何番乗り場ですか」
導入・口頭練習
- ・電車に乗る-Dの写真 新長田に新快速や快速が止まらないことを学習者が知っているか確認する。
わからない場合として「この電車は新長田にとまりますか」導入・練習

参考資料の出口掲示板などは学習者の使っている路線やレベルにあわせて使用する。

②どこの駅まで行くかを決めて、会話練習する。

場面・・・バスに乗る

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 13 参考資料 P. 26

①参考資料の写真をテキストの横において時系列に沿って確認していく

- ・目的地へ行くバスを探す-Eの写真 「見てください。どのバスですか。わかりますか。

わからない時は「あの、すみません。三宮へ行くバスはどれですか」導入・口頭練習)

停留所に止まっているバスを指差せる場合とバス停を案内してもらえる場合が考えられるので、返答は2パターンある。どちらも会話練習する。

- ・バスを降りる-Fの写真 降りる前にしなければいけないことを写真で確認する。

②どこまで行くかを決めて、会話練習する。

場面・・・タクシーに乗る

<テキストを使って>P. 14

道でタクシーを止める方法をイラストを見て確認する。

①タクシーに乗る 「神戸市役所までお願いします」導入・口頭練習

②お金を払う 「いくらですか」導入・口頭練習

自宅へ行ってもらう場合は住所を言う練習をする

学習者のレベルが高ければ自宅へ行く設定にして学習者に道案内をしてもらうのも可。

<参考資料を使って>P. 21

「乗り物」導入

イラストを見ながら導入した後は口頭練習する。

学習者のレベルにあわせて、ここまでどうやって来たか、または目的地を決めて、何でどのように行くかなど質問する。

【テーマ】

電話をする・待ち合わせ

- ◆この課の目標：
- ①電話で誘って約束をすることができる
 - ②誘いを断ることができる
 - ③理由を述べて約束の変更・キャンセルや遅刻を伝えることができる
 - ④相手が不在の時、戻る時間を聞く・伝言を頼むことができる

- これだけは：
- ①もしもし〇〇です。
 - ②失礼します。
 - ③一緒に～ませんか。
 - ④～はありますか。
 - ⑤わかりました。
 - ⑥その日はちょっと…。

≪授業の進め方 例≫

＜参考資料を使って＞P. 27～29

【時間】 導入

朝昼晩/夜

●日・週・日(1～31)・月・年

●曜日

数字1～12と___時

※一回で覚えられなくてもいいので覚えるまで無理やり練習を続けることはしない。

「___は、どうですか。」導入

テキストの会話例を区切って口頭練習する。

例：「何時に会いましょうか。」「12時はどうですか。」「はい、いいですよ。」

支援者が学習者に時間を聞くようにする。

＜参考資料を使って＞P. 27

【誘う】 導入

- ①「ご飯を食べます」等のことばを確認して口頭練習をする。
- ②「一緒に___ませんか。」の下線部に①のことばを入れて口頭練習する。
- ③「一緒に___ませんか。」「はい、いいですよ。」と会話練習する。

<テキストを使って>P. 15

【誘う】の会話 導入

- ①会話内容の意味を確認する。
- ②「もしもし、〇〇です。」を口頭練習する。
- ③「今週の日曜日、一緒にご飯を食べに行きませんか。」を口頭練習する。
* 文が長くて難しそうな場合は、文節などで短く切って口頭練習する。
- ④会話の初めから実演する。(支援者は「はい、いいですよ。」まで発話する)
* 学習者から支援者に電話をかけている設定なので電話をかけるジェスチャーを入れるとわかりやすい。
- ⑤もう一度、会話の初めから実演し「はい、いいですよ。何時に会いましょうか。」を付け足す。
学習者が時間を聞かれていることがわかっているか確認する。
* わからない場合は参考資料 P. 29 に戻って時間の確認をする。
学習者が「〇時はどうですか」と発話したら「はい、いいですよ」と返事をする。
- ⑥もう一度、会話の初めから実演し「はい、いいですよ。どこで会いましょうか。」を付け足す。
学習者が待ち合わせ場所を聞かれていることがわかっているか確認する。
待ち合わせ場所は、学習者が住んでいる地域や日本語教室のある地名にしてもよい。
学習者が「〇〇はどうですか」と発話したら「はい、いいですよ」と返事をする。
- ⑦日時を決めて約束ができたなら「わかりました」と返事をすることを説明して口頭練習する。
* テキストの会話例は学習者が日時や待ち合わせ場所を提案するようになっているので、「わかりました」というフレーズが含まれていない。そのため、一通り練習ができたなら役割を交代する。
- ⑧会話の初めから終わりまで会話練習する。「失礼します。」
- ⑨実際に学習者が支援者を食事に誘うと設定して会話練習する。

場面設定…電話で誘いを断る

<テキストを使って>P. 16

【誘いを断る】の会話 導入

- ①会話内容の意味を確認する。
- ②「その日はちょっと…」の意味を確認して口頭練習する。
日本人は誘いを断る時に「その日は無理です」「その日は行けません」とはっきり言わないことがあると伝える。
- ③会話の初めから終わりまで会話練習する。

場面設定…電話で約束をキャンセルする

<参考資料を使って>P. 31

風邪をひいた等のことばの意味を確認して口頭練習する。
また風邪や熱などがある場合に体調が悪いという場合があることを説明して口頭練習する。

<テキストを使って>P. 17

【キャンセルする】の会話 導入

- ①会話内容の意味を確認する。
- ②学習者のレベルによって★か★★を選び口頭練習する。
*文が長くて難しそうな場合は、文節などで短く切って口頭練習する。

場面設定…約束をした当日、トラブルを電話で伝える

<参考資料を使って>P. 30

- ①「寝坊した」～「仕事が入った」のことばの意味を確認して口頭練習する。
- ②★「すみません、___ので 遅れます。」の文の下線部に入れて口頭練習する。
- ③★★「すみません、___ので 行けなくなりました。」の文の下線部に入れて口頭練習する。
※学習者のレベルによって「行けなくなりました」が言いにくい場合は「行けません」で練習する。

<テキストを使って>P. 17

【遅れる】の会話 導入

- ①会話内容の意味を確認する。
- ②口頭練習する。
*文が長くて難しそうな場合は、文節などで短く切って口頭練習する。

<テキストを使って>P. 17

*複雑な内容なので、まだ難しそうな場合は取り上げない。

また支援者が二人以上いる場合は会話例をまず支援者同士で実演するほうがよい。

場面設定…話したい相手の家や会社に電話をする

【会社の人や相手の家族と話す】

- ①（呼び出す相手がいる場合）の会話を実演する。

支援者1「もしもし山田アンです。田中さん、いますか。」

支援者2「はい、少々お待ちください。」 電話機を支援者2へ渡す動作をする。

支援者3「もしもし、田中です。・・・」

- ②会話内容の意味を確認する。

- ③★「田中さん、いますか。」口頭練習する。

学習者のレベルを見て★★で口頭練習してもよい。

- ④会話の初めから終わりまで会話練習する。

場面設定…話したい相手が家や会社にいない⇒戻る時間を聞く

【会社の人や相手の家族と話す】

- ①（呼び出す相手が不在の場合A）の会話を実演する。

支援者1「もしもし山田アンです。田中さん、いますか。」

支援者2「今、でかけております。」／「今、おりません。」

支援者1「そうですか。★何時ごろ戻りますか。」

支援者2「3時には戻ると思います。」

支援者1「わかりました。失礼します。」

- ②会話内容の意味を確認する。

- ③「何時ごろ戻りますか。」口頭練習する。

学習者のレベルを見て★★で口頭練習してもよい。

- ④会話の初めから終わりまで会話練習する。

場面設定…話したい相手が家や会話にいない⇒伝言を頼む

【会社の人や相手の家族と話す】

①（呼び出す相手が不在の場合B）の会話を実演する。

支援者1 「もしもし山田アンです。田中さん、いますか。」

支援者2 「今、でかけております。」 / 「今、おりません。」

支援者1 「そうですか。すみませんが、明日の食事会に行けなくなったと伝えてください。」

支援者2 「わかりました。伝えます。」

支援者1 「よろしく申し上げます。失礼します。」

②会話内容の意味を確認する。

③「すみませんが、明日の食事会に行けなくなったと伝えてください。」口頭練習する。

学習者のレベルを見て★★で口頭練習してもよい。

④会話の初めから終わりまで会話練習する。

※下記の語彙は基本形ではない(数字+助数詞)ので注意する。

| | | | |
|------------|---------|-------------|-------------|
| しがつ 4月 | ついたち 1日 | ふつか 2日 | みっか 3日 |
| よっか 4日 | いつか 5日 | むいか 6日 | なのか 7日 |
| ようか 8日 | ここのか 9日 | とおか 10日 | じゅうよっか 14日 |
| じゅうくにち 19日 | はつか 20日 | にじゅうよっか 24日 | にじゅうくにち 29日 |
| よじ 4時 | くじ 9時 | | |

【テーマ】

お金を出す・入れる／手紙・荷物を送る

- ◆この課の目標：
- ①郵便局、コンビニ、銀行で何ができるかがわかる
 - ②お金の出し入れができる(ATM)
 - ③手紙・荷物を送ることができる
 - ④送り状を書くことができる
 - ⑤再配達を依頼することができる

これだけは

①すみません、

| |
|---------|
| お金を出したい |
| お金を入れたい |

んですが…。

②これ、お願いします。

《授業の進め方 例》

＜テキストを使って＞P. 19

銀行・郵便局・コンビニでできること・できないことを表を見ながら確認する。


P. 19の一番下にある「コンビニでは宅配便を～」を読んで、学習者に説明する。

学習者のレベルに合わせて、今までに各サービスを利用したことがあるか等の会話を膨らませてもよい。

場面設定…郵便局・銀行(ATM)

＜テキストを使って＞P. 20～21

- ◆ATMの機械を使ってお金を出す

ATMの画面を見て、 のついていることばの意味の確認をする。

※ことばが読めなくても、その文字を見て何ができるのかという事が分かればよい。

わからないときは

「すみません、お金を出したい・お金を入れたい んですが…」導入して口頭練習する。

- ◆暗証番号を入れる

写真を見ながら、暗証番号の意味を確認する。

場面設定…郵便局

<テキストを使って>P. 21

◆手紙を送る

- ①会話内容の意味を確認する。普通と速達の違いについてもテキストの説明文にて確認する。
- ②★「これ、普通・速達をお願いします。」口頭練習する。
- ③支援者が郵便局員役、学習者が手紙を出す役になって会話練習する。
学習者のレベルにあわせて、会話の内容を膨らませてもよい。

場面設定…郵便局

<テキストを使って>P. 22

◆荷物を送る

- ①時系列に沿って「受付へ行く」から「荷物を送る」までの流れを確認する。
- ②「これ、送りたいんですが…」口頭練習する。
- ③送り状をもらう
実物などを使うとわかりやすい。

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 22 参考資料 P. 32

- ①EMS や SAL 便などそれぞれの送り状の説明・意味確認をする。
学習者のレベルに合わせて、今までに送り状を書いて荷物を送ったことがあるか、
また荷物を送った経験がなくても、送り状を見たことがあるか等、会話を少し広げてもよい。
- ②送り状を書く
資料を見ながら、どの欄に何を記入するのかを確認する。
確認後、実際に送り状を書く。

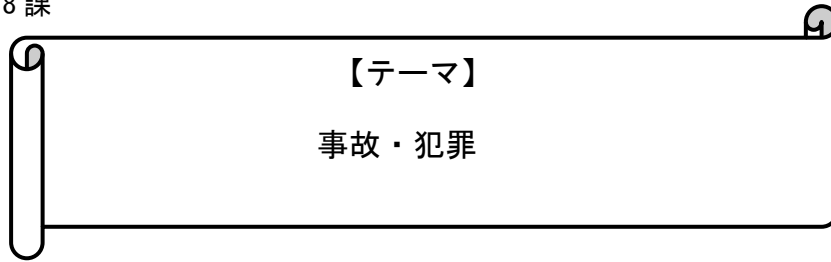
<テキストを使って>P. 23

- ①「これ、お願いします。」口頭練習する。
支援者が郵便局員役で「はい、_____円です。」と会話練習をする。
- ②時系列に沿って、初めからお金を払う所までを発表してもらってもよい。
学習者のレベルに合わせて会話を膨らませてもよい。

<テキストを使って>P. 23～24

◆再配達を頼む

- ①郵便局・宅急便には再配達の手続きがあることを説明する。
学習者のレベルに合わせて再配達をしたことがあるかを聞く。
- ②(再配達の手紙があれば、実際に見せながら)再配達を頼む時は、その紙が必要であることを説明する。
- ③時系列に沿って、「電話をする」から「電話を切る」まで確認する。
- ④「もしもし、再配達をお願いしたいんですが…」口頭練習する。
- ⑤伝票のどこの番号を見るのか、またその電話番号がどこにつながるのか説明する。
「12356789012です。」口頭練習する。
- ⑥「明日の11時にお願いします。」口頭練習。
日時のことばがわからない場合は、参考資料P. 27で確認して口頭練習する。
- ⑦「失礼します。」口頭練習。
- ⑧「電話をする」から「電話を切る」まで会話練習する。



- ◆この課の目標： ①どんな時 110 番・119 番に電話するかがわかる
②110 番・119 番の電話のやりとりができる
③事故や犯罪の場所、時間、状況、自分の名前、電話番号、住所を伝えることができる
④助けを呼んだり、要求を伝えることができる

これだけは：

| | | |
|-----------|---|-----------|
| ①警察(パトカー) | } | を呼んでください。 |
| 救急車 | | |
| 消防車 | | |
| ②助けて！ | | |
| ③誰か！ | | |

《授業の進め方 例》

＜参考資料を使って＞P. 37

①事件・事故のことは 導入

※「けんか・暴力・DV」「盗難・紛失・ひったくり」は学習者の中には具体的場面設定をして説明しなければわかりづらい方もいるので混同しないように注意する。

②火事・急病のことは 導入

＜テキストを使って＞P. 25～26

「事件と事故の場合は110番に電話をする」ということを説明する。

110番に電話をすれば警察につながることを理解してもらう。また学習者の出身国では何番に電話すれば警察が来るのかなど聞いてみてもよい。

同じように「火事と救急の場合は119番に電話をする」ということを説明する。

場面設定・・・事故現場に居合わせる

●事故のとき 導入

テキストに沿って支援者が警察役、学習者が電話をする役で口頭練習してから会話練習する。

なおテキスト通りの順番で警察から質問がくるかわからないので、通報する際に重要になるポイントをまとめておく。ポイント⇒「いつ起きたのか」「どこで起きたのか」「どんな事故なのか」

「どこで起きたのか」は各地域の日本語教室の最寄りである駅や住所などを使って練習すると良い。

◆けが人に声をかける 導入 口頭練習

* 「けが人」と「けがをした人」は同じ意味だが、警察や救急からの質問は「けが人がいますか」などと言われる場合が多いので発話よりも聞きとる力が必要になる。「けが人がいますか」と質問を増やしてみるのも良い。

場面設定・・事故の当事者であるとき

<テキストを使って>P. 26

◆事故を起こしたとき

◆事故に遭ったとき 導入

「警察を呼んでください」「救急車を呼んでください」

支援者と学習者で役割を決めてどちらに非があるのか場面設定をしっかりとしたうえで口頭練習する。

※場面とフレーズを逆で理解されるとトラブルになりかねないので注意する。

学習者のレベルが高ければ、事故の場合どちらに非があるのかわかりづらい場合は「すみません」と言うのはできるだけ避けたほうが良いことを説明する。

また免許証などは携帯などで写真を撮ったほうが良いことも説明する。

<テキストを使って>P. 27

◆相手が逃げたとき

テキストに沿って確認する。

場面設定・・事件現場に居合わせる

<テキストを使って>P. 27

●事件のとき 導入

テキストに沿って支援者が警察役、学習者が電話をする役で口頭練習してから会話練習する。

なおテキスト通りの順番で警察から質問がくるかわからないので、通報する際に重要になるポイントをまとめておく。ポイント⇒「いつ起きたのか」「どこで起きたのか」「どんな事件なのか」

「どこで起きたのか」は各地域の日本語教室の最寄りである駅や住所などを使って練習すると良い。

「どんな事件ですか」の返答は参考資料で練習したことばを使ってもよい。

* この際、命に関わるような事件は110番に電話をしたほうが良いが、紛失などで110番に電話をすることはまずないので支援者のほうで練習することばを選んで場面設定がぶれないように注意する。

場面設定・・・自宅が火事になった

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 28 参考資料 P. 39

●火事するとき 導入

学習者の自宅が火事にあったという場面設定をする。

テキストに沿って支援者が消防士役、学習者が電話をする役で口頭練習してから会話練習する。

「住所はどこですか」…学習者自身の自宅の住所を言う。

「どこが燃えていますか」…テキストの会話例で「家の台所が燃えています」を練習した後は参考資料を見ながら、家の中のいろいろな場所を下線部に入れて口頭練習する。

「負傷した人や逃げ遅れている人はいますか」…自分の家族が巻き込まれていると想定して口頭練習する。
また、自分が火事に巻き込まれて電話ができない場合として「消防車を呼んでください」を口頭練習する。

場面設定・・・家族が倒れた

<テキストを使って>P. 29

●救急するとき 導入

学習者の家族が倒れたという場面設定をする。

テキストに沿って支援者が救急隊員役、学習者が電話をする役で口頭練習してから会話練習する。

学習者のレベルにあわせて★と★★どちらかを選んで口頭練習する。

倒れた人の名前は学習者の家族の名前で練習をしてもよい。

<テキストを使って>P. 31

◆ものを失くしたとき

◆ものを盗まれたとき

◆詐欺にあったとき

◆痴漢にあったとき

◆暴力・DVにあったとき 導入

各場面設定をしたうえで導入して口頭練習する。

学習者の性別・レベルにあわせて◆痴漢にあったとき は相手の特徴などを話す練習を入れても良い。

<テキストを使って>P. 32

◆身を守る・主張する 導入

支援者が加害者役、学習者が被害者役になって練習する。

「助けて!」「誰か!」は誰かに気付いてもらいやすいフレーズなので初級の学習者にも覚えてもらうこと。

「やめて!」「やめろ!」は学習者の性別にあわせて導入する。

学習者のレベルにあわせて、日本に来てから何かトラブルに巻き込まれたことがあるか・またその際自分はどうに対応したのかなど話し合うのも良い。

【テーマ】

災害・防災

- ◆この課の目標：
- ①災害に遭ったとき、何が起こりうるか予想できる
 - ②災害に遭ったとき、必要な情報を得ることができる
 - ③災害に遭ったとき、何を持ってどこへ逃げるかがわかる
 - ④防災の知識を得る

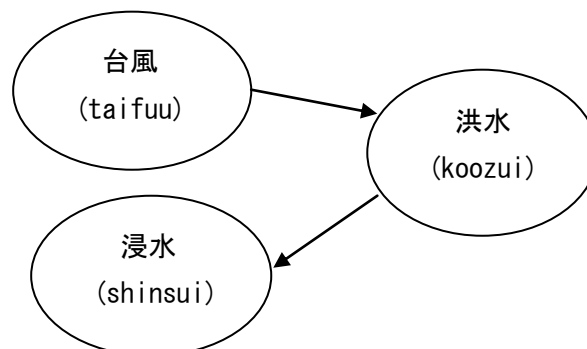
- これだけは：
- ①何があったんですか。
 - ②助けてください。
 - ③〇〇をください。

≪授業の進め方 例≫

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 33~35 参考資料 P. 41

場面設定…台風がきた

- ①台風の映像や写真を学習者に見てもらい「何があったんですか」と質問する。
学習者から「台風」ということばが出なければ参考資料で確認する。→「台風」導入
- ②「もし台風がきたら…かもしれません」導入
台風がきて引き起こされる次の災害は何か確認する。
学習者が災害に関することばを知らない場合は参考資料で確認する。→その都度、そのことばを導入
「もし台風がきたら洪水になるかもしれません」と文で口頭練習する。
学習者から意見が出なくなった場合は、参考資料を確認する。
- ③テキスト P. 34 は下記のように「書く」活動に使うことができる。
(例：台風から引き起こされる災害を記入していく)



④出た意見を「もし～がきたら～かもしれません」とフレーズで書く練習をする。

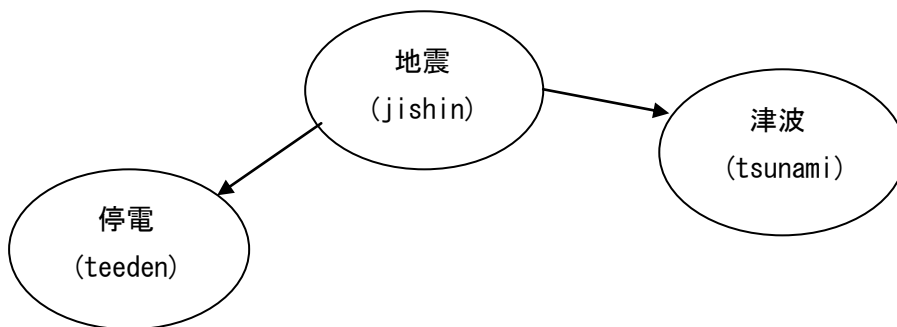
場面設定…地震が起こった

①「もし地震がきたら…」も上記①②と同様の流れで進めていく。

* 学習者が文で口頭練習するのが難しそうな場合は、ことばのみを導入して口頭練習する。

②テキスト P. 35 は下記のように「書く」活動に使うことができる。

(例：地震から引き起こされる災害などを記入していく)



③出た意見を「もし～がきたら～かもしれません」とフレーズで書く練習をする。

場面設定…地震が起こったので逃げる

①机やいすなどを動かして地震があったと場面設定をする。

準備ができればニュースや映像等を見せてもよい。

②「何があったんですか」導入

①の状況で発話するフレーズということを説明して口頭練習する。

③「避難所はどこですか」導入

津波や土砂崩れが起こるかもしれないと場面設定をする。

導入して口頭練習する。

④「助けてください！」導入

土砂崩れで逃げられなくなると場面設定をする。

導入して口頭練習する。

<テキストを使って>P. 36

情報を得る 確認

①テレビ、ラジオ、インターネット（パソコン/携帯電話/スマートフォン）導入

学習者のレベルに合わせて、上記のことばを導入をする前に何で情報を得るか聞いてみてもよい。

②多言語放送のラジオ局を説明する。

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 36 参考資料 P. 42

何を持って逃げるか 確認

避難する際に何を持って逃げるかを挙げていく。

学習者のレベルに合わせて参考資料を見ずにどれだけのことばが出るかを確認するのも良い。

初級の学習者の場合は参考資料を使ってことばを導入する。

防災グッズを実際に見せても良い。

<テキストを使って>P. 37

どこへ逃げるか 確認

①学習者の住んでいる区域や日本語教室がある区域にある避難所をあらかじめ調べておく。

学習者のレベルに合わせて避難所がどこにあるかを確認するのもよい。

②避難所のマークなども確認する。

避難所では 確認

テキストに沿って避難所でできること、あるもの等を確認する。

<テキストを使って>P. 38

場面設定…避難所

①「食べ物や飲み物はいつ届きますか」導入

避難所にいる人に聞くフレーズとして導入して口頭練習する。

②「〇人分、をください」導入

学習者の家族の人数を確認して〇人分を口頭練習する。

その後、

P. 37 の避難所にあるもののことばを使って「をください」を口頭練習する。

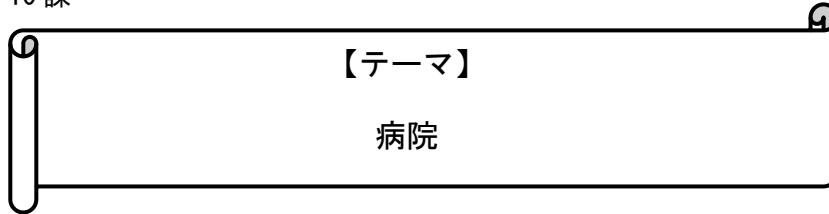
<テキストを使って>P. 39

テキストに沿って、災害に備えて何を準備しておくのか確認する。

<防災カードを使って>P. 40

「避難カード」記入

神戸市が発行している防災カードを確認する。主な言語で翻訳されているカードなので学習者の母語にあわせて実際にカードを準備しておくのも良い。名前や住所を書く欄があるので、一緒に書いてみる。



- ◆この課の目標： ①自分の症状にあった病院を探すことができる
②問診表を書くことができる
③自分の症状を医師に伝えることができる
④医師からの指示・説明を理解することができる
⑤薬の用法・用量がわかる

これだけは： ①〇〇が痛い。
②〇〇んです。

〈授業の進め方 例〉

〈参考資料・実物を使って〉P. 43～44

【体の部位】

- ①体の部位を指しながら「これは何ですか」と聞く。
学習者のレベルに合わせて導入していく。レベルの高い学習者にはテキストに掲載していない部位を説明してもよい。(例：あご、まゆげ、まつげ等)
- ②体部位を導入した後、イラストや実物を指さして口頭練習する。

【内臓】

【体の部位】と同様に練習する。

〈参考資料を使って〉P. 45

- ①「症状」の口頭練習する。「〇〇が痛い」
- ②一通り発話ができるようになったら「～んです」につなげて口頭練習する。
*下痢と便秘は「～なんです」となるため他のこととは違うことを注意しておく。

〈テキストを使って〉P. 41

◆病院を探す

テキストに沿って説明する。

1. 症状によって病院を決める

- ①各科の名称を導入する。
歯科は歯医者という場合があること、耳鼻咽喉科は耳鼻科と略されることがあることを説明してもよい。
学習者のレベルが高ければ「どこかの科へ行ったことがありますか」と聞いてみるのもよい。

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 42 参考資料 P. 45

2. 近所の人に聞く

場面・・・病院を探す

①「頭が痛いんですが、いい病院を知っていますか」導入・口頭練習

参考資料の症状を見ながら、ほかの症状を下線部に入れて口頭練習する。

「大丈夫ですか。神戸病院がいいと思います」の返答モデル文に関しては、学習者のレベルにあわせて実際に近所にある病院や地元にある総合病院名などを使って練習してもよい。

②「内科に行きたいんですが、いい病院を知っていますか」導入・口頭練習

参考資料の症状を見ながら、ほかの症状を下線部に入れて口頭練習する。

<テキストを使って>P. 42

場面・・・病院へ行く（初診）

①病院はほとんどが漢字で書いてある場合があるので「受付」「診察室」「会計」「薬局」「保険証」等の漢字を見て意味がわかるように練習する。

* テキストにはふりがなやローマ字が記載されているので、板書等で漢字だけを書いて練習するとよい。

②「すみません、初めてなんですが…」導入

テキストを見ながら学習者が患者役、支援者が受付担当者役で会話練習する。

学習者のレベルにあわせて、テキストを見ずに普段学習者が病院に行った時にどのように話しているか確認してもよい。

③「保険証」ということばを説明する。

支援者が実際に持っている保険証を見せるとよい。

<参考資料を使って>P. 48

学習者のレベルに合わせて参考資料にある問診表を使って、実際に記入する練習や言葉の意味を説明する。

* 名前・住所・生年月日など基本的なことは記入できるように練習しておいたほうがよい。

<テキストを使って>P. 43～44

場面・・・診察を受ける

「昨日の夜から、頭が痛いんです」導入

テキストを見ながら学習者が患者役、支援者が医師役で会話練習する。

学習者のレベルにあわせて、テキストを見ずに普段学習者が病院に行った時にどのように話しているか確認してもよい。

学習者のレベルにあわせて、テキストを見ながら診察時に医師が言いそうなフレーズを入れてもよい。

＜テキスト・参考資料を使って＞テキスト P. 43 参考資料 P. 46

「どのように痛いですか」と質問してみても学習者が返答に困っていたら参考資料の「痛みのレベル」を見なが「少し痛い」「痛い」「とても痛い」などを練習する。

また学習者のレベルにあわせて「ガンガン」「ズキズキ」などの擬態語を取り入れてもよい。

＜参考資料を使って＞P. 46

【検査】

イラストを見ながら検査のことばを確認する。

学習者が発話するより医師や看護師から説明されることが多いので、聞きとれるようにする。

＜テキストを使って＞P. 43

場面・・会計でお金を払う

「会計」という漢字を見て意味がわかるようにテキストで確認する。

会計でもらうものとして「領収書」「処方箋」ということばを説明する。

支援者が会計担当の役をして会計時のフレーズなどを練習してもよい。例：「今日は1200円です」等…

場面・・薬局で薬をもらう

①「お願いします」導入

処方箋を渡す動作を入れながら口頭練習する。

薬局での流れがわかりやすいように支援者が薬剤師の役になって練習してもよい。

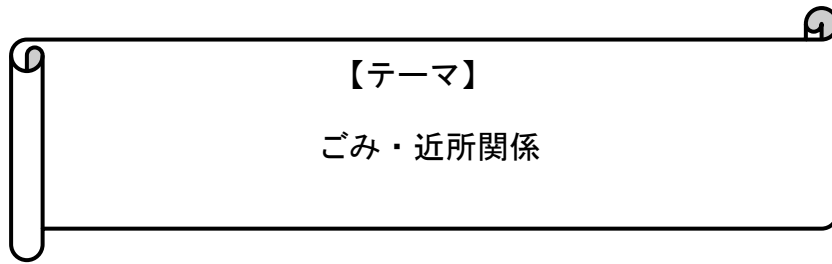
最近の病院は、薬を薬局でもらうようになっているところが多いので「薬」という漢字を見て意味がわかるようにする。

＜テキスト・参考資料を使って＞テキスト P. 45 参考資料 P. 47

テキストに沿って薬袋・用法・用量の説明をする。

実際の薬袋などを準備して学習者に見せるとわかりやすい。

学習者のレベルが高ければ参考資料を使って薬の種類や数え方を練習してもよい。



- ◆この課の目標：
- ①ぐみを(神戸市のルールに沿って)正しく分別して捨てることができる
 - ②大型ぐみを(神戸市のルールに沿って)捨てることができる
 - ③近所関係を築く(挨拶・自治会)

これだけは：

- ①〇〇を捨てたいんですが…。
- ②〇〇に引っ越してきた〇〇です。

≪授業の進め方 例≫

＜テキストを使って＞P. 46

◆神戸市のごみ袋 確認

テキストに沿って、神戸市ではぐみの分別が必要であることを理解してもらう。

* 規定のごみ袋以外では、ぐみが出せないことは必ず学習者に説明する。(近所とのトラブル回避のため)

◆神戸市のルール 確認

テキストに沿って説明する。

学習者のレベルにあわせて支援者が「ぐみはどこへ出しますか」「何時に出しますか」など質問しながら神戸市のルールを確認してもよい。

神戸市が発行している各言語翻訳版の資料を使って、分別の種類などを確認してもよい。

＜参考資料を使って＞P. 52～53

【ぐみ収集の看板】

看板を見ながら、どの袋のぐみをいつ出したらいいか確認する。

ほとんどの地域では写真のように「月」「水」など省略して書かれている。

また英語やその他の言語で表記はないため学習者のレベルを問わず漢字を見て意味を理解しなければいけないので曜日の漢字と意味が一致するように時間をかけて練習する。

【家庭ぐみ】【台所用品】【電化製品】【家具】【日用品】

- ①イラストを見てことばを導入・口頭練習する。実物が準備できそうなものは実物を使ってもよい。
- ②ことばの導入・口頭練習が終わったら、それがどの種類のぐみなのかを考える。

③集めることができるごみは実物を使って、学習者が実際にごみ袋に入れて分別をしながら「これは生ごみです。燃えるごみです」と口頭練習を付け加えてもよい。支援者は正しく分別されているかを確認する。

*特にペットボトルは商品ラベルとボトルが別々のごみになるので注意する。

<テキスト・参考資料を使って>テキスト P. 47 参考資料 P. 49～52

場面設定・・・ごみを出す

①いつごみを出せばいいかわからないものがあつたという設定にする。

②「これはいつ出したらいいですか」導入

参考資料や実物を使って指さしながら会話練習する。

学習者のレベルにあわせて支援者と学習者の役を交代して練習してもよい。

<テキストを使って>P. 47～50

場面設定・・・大型ごみを捨てる

(学習者のニーズにあわせて導入する)

支援者がたんす等の大型ごみを捨てたいという設定にする。

◆「大型ごみを捨てる」確認

捨てることができるもの・できないもの 確認

初級の学習者であれば捨てることができるもの・できないものをテキストにあるイラストを見ながら説明する。

中上級の学習者であれば「私はテレビを捨てたいです。大型ごみで捨てることができますか。できませんか。」
というように、いくつかの家電や家具を例として挙げて学習者に質問してもよい。

また大型ごみを捨てたことがあるか質問して、どのような流れで捨てたかを確認してもよい。

◆大型ごみ受付センターへ電話する

①大型ごみ受付センターの電話番号と営業時間を確認する。

②テキストに沿って、ごみを捨てたい人のフレーズを口頭練習する。

「すみません、〇〇を捨てたいんですが…」

③支援者が大型ごみ受付センターの職員役になって会話練習する。

④一度練習ができれば、捨てたいものを他のことばにして会話練習する。

<テキストを使って>P.51

場面・・近所の人に会う

◆近所関係

●あいさつ

ごみを出しに行ったら近所の人に会ったという場面設定にする。

①「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」を導入・練習する。

挨拶をする際に会釈をすとなお良い。会釈をするのは日本文化の一つでもあるので実際にやってもらうとよい。

②テキストに沿って「遠い親せきより近くの他人」という文を読みながら学習者に近所づきあいの大切さを理解してもらう。

③学習者の必要度に応じて引っ越し時の挨拶も練習する。

「〇〇に引っ越してきた、〇〇です」

また学習者の自宅付近へ引っ越してきた人がいた場合はこのような挨拶に来る可能性が高いので、その際は自己紹介をすればいいことを伝える。

<テキストを使って>P.52

●自治会

①テキストに沿って、自治会について説明する。

②自治会の説明が終わったら、回覧板を説明する。もし回覧板や町内会のお知らせプリントのような実物があればそれを学習者に見せる。

場面・・回覧板を次の人へ渡す

③「回覧板です」導入

回覧板にサインをして次の人へ渡すのを実際にやってもらい、渡す時のフレーズを口頭練習する。

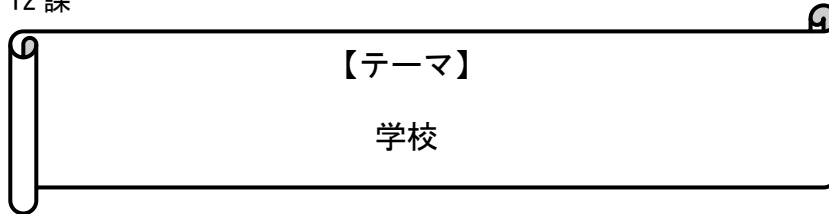
④「すみません、次は誰に回したらいいですか」導入

もし次に渡す相手がわからない場合として、近所の人に聞くフレーズを口頭練習する。

支援者が近所の人役になって会話練習してもよい。

学習者のレベルにあわせて「すみません、この意味がわからないんですが教えてくださいませんか」と口頭練習する。

⑤テキストに沿って、もし何か不安なことがある場合は相談できる団体があることを説明する。



- ◆この課の目標：
- ①日本の教育制度を知る
 - ②学校用語を知る
 - ③子どもが学校を休む・遅刻する場合、学校に（電話で）連絡ができる
 - ④学校から配布されるお知らせの中から必要な情報を読み取ることができる
 - ⑤連絡帳を読むこと、書くことができる
 - ⑥子どもに心配なことがある時、学校に相談することができる

- これだけは：
- ①〇年〇組の〇〇です。
 - ②〇〇ので休みます。
 - ③〇〇ので遅れます。

≪授業の進め方 例≫

＜テキスト・ダウンロード資料を使って＞P. 54

◆日本の教育制度を知る

テキスト内で紹介されているホームページより日本の教育制度を簡単に紹介する。
様々な言語の翻訳版があるので、学習者のレベルにあわせてそれをダウンロードしてもよい。
情報が多い為、中でも日本の学校制度を紹介するとよい。
ただし学習者がすでに知っている場合は、学習者に日本の学校制度についていろいろと聞いてみてもよい。
国によって制度が様々であるため、日本と比較してみると面白い。

＜テキストを使って＞P. 54～56

◆学校に電話する

テキストの「これだけは言いましょう！」を確認する。

場面設定…子どもが学校を休む

①「〇年〇組の〇〇の母(父)ですが…」

「〇〇ので休みます」 導入

学習者の子どもさんが学校に通っている場合は、実際の学年・組・担任の先生の名前で練習する。

②支援者が先生役になって会話練習する。

学習者のレベルにあわせて、会話例を見ずに実際に支援者と学習者で会話をしてよい。
もし、会話の中で間違いや不自然な日本語、また誤解を与える発話があった場合は訂正する。

③子どもの症状を説明する練習をする。

会話例の「熱があるので」以外にも学校を休むと考えられる症状を下線部に入れて口頭・会話練習するなど学習者のレベルに合わせて、会話を膨らませてよい。

<テキストを使って>P. 56~57

場面設定…子どもが学校を遅刻する

①「〇年〇組の〇〇の母(父)ですが…」

「〇〇ので遅れます」

導入

以下「子どもが学校を休む」と同じ流れで行う。

◆学校用語を知る

テキスト内で紹介されているホームページで、学校用語を確認する。

様々な言語で翻訳された学校用語があるので、学習者のレベルにあわせてそれをダウンロードしてもよい。

(内容が多いので、その中でも最低年間の学校行事・学校用具は紹介、確認を行う。)

<テキストを使って>P. 57~58

◆連絡帳を読む・書く

テキストに沿って連絡帳の内容を説明する。

実物(使用済)があればそれを見せ、連絡帳にどのような事が書かれていて、また保護者がどのようなことを書かなければならないかを確認する。

●休み、遅刻の連絡を書く

何も書いていないページをコピーするなどし、実際に先生への連絡を書く練習を行ってもよい。

* 漢字が難しい学習者の場合はひらがなで書くなど配慮をする。

<テキストを使って>P. 59

◆相談する

学習者が初級レベルであれば、テキストを見ながら意味を確認して口頭練習をする。

実際に子どもさんがいる学習者であれば、子どもが学校に行くと、どんなことが心配か、また心配だったかを聞く。

心配なことがあるとき(あったとき)は、どのように学校に伝えるかを聞く。

ある程度学習者の意見を聞いたあと、相談する時の言い方の例としてテキストの中にある言い方を紹介・練習する。

◆子育てのアドバイス

テキストに沿ってアドバイスとして紹介してもよいが、支援者自身の経験や、子育ての経験が豊富な学習者自身から何かいいアドバイスがあれば、聞いてみてもよい。

※時間に余裕があれば…

<実物を使って>

- ・学校便りをコピーし、多くの情報の中からどの情報が重要な情報かを読む取る練習を行う。
いくつかの学校便りを見て、支援者がキーワードとなる重要な言葉を決め、学習者に探してもらう。
(「行事予定」や「保護者様」等の言葉等)
- ・学習者のレベルに合わせて、学校便りの内容を確認する作業を行ってもよい。

- ・「あゆみ」があればそれを見せながら、日本では1年に3回各学期終了時に成績表をもらうことを紹介する。なければ、口頭で簡単に説明してもよい。